



これは見逃せない！第32回東京国際映画祭のおすすめ7作品



第32回東京国際映画祭（以下TIFF）が2019年10月28日（月）から11月5日（火）までの9日間にわたって開催されます。“今、TOKYOでしか出合えない映画”を合言葉に、日本国内外様々な映画の上映はもちろん、六本木ヒルズを中心とした多数の会場でのイベントも目白押しです。M&A Online読者へオススメの注目作品を紹介します。

元気いっばいの日本映画
©2019松竹株式会社
男はつらいよ お帰り寅さん

製作：日本監督：山田洋二出演：渥美清、倍賞千恵子、吉岡秀隆国民的映画シリーズ『男はつらいよ』の奇跡的な最新作。小説家となった満男（吉岡秀隆）の胸に、いつも自分の味方でいてくれた叔父・寅次郎（渥美清）への想いが蘇る……。記念すべき50作目となる本作は、くるまの面々の“今”を描く新たな映像と4Kデジタルで蘇る寅さんが紡ぐ新たな『男はつらいよ』の物語。

©2019「カツベン！」製作委員会
カツベン！

製作国：日本監督：周防正行出演：成田凌、黒島結菜舞台は今から約100年前の日本。映画が活動写真と呼ばれ、サイレントでモノクロだった頃、日本独特の存在・活動弁士を夢見る若き青年を主人公に日本映画の未来を夢見た人々の群像劇。アクション、コメディの要素をふんだんに盛り込んだノンストップエンターテインメント作品。

©2019『i-新聞記者ドキュメンター』
i-新聞記者ドキュメンター

製作：日本監督：森達也出演：望月衣塑子大ヒット問題作、映画『新聞記者』のプロデューサーが描く衝撃のドキュメンタリー。『新聞記者』の原案者である東京新聞社会部記者・望月衣塑子の姿を通して、日本の報道そして日本社会が抱える問題点に迫る。報道では決して映し出されない、現代日本の姿がここにある。

©Mirage Ltd.
オーバーエベレスト陰謀の氷壁

製作：中国/日本監督：ユー・フェイ（余非）出演：役所広司、チャン・ジンチュー、リン・ボーホン日中合作の山岳アクション。世界を代表するプロデューサー“テレンス・チャン”×日本を代表する俳優“役所広司”が世界最高峰のエベレストを舞台に描く超大作。

海外映画も見どころ一杯！
© Iranian Independents
ジャスト6.5

製作国：イラン監督：サイード・ルスタイ出演：ペイマン・モアディ、ナウイド・モハマドザデー、ファルハド・アスラニイラン警察VSドラッグ組織のド迫力のアクション娯楽映画。刑事部長（ペイマン・モアディ）は強引なやり方で次々とドラッグ関係者を逮捕していき遂に親玉に接近するが……。？2019年はイラン映画の当たり年だと言われる。その中でも特に見逃せない本作はペイマン・モアディ、人気急上昇中のナウイド・モハマドザデー、イランの人気俳優対決にも要注目。

©2019 Twentieth Century Fox Film Corpora
ジョジョ・ラビット

製作国：アメリカ監督：タイカ・ワイティティ出演：ローマン・グリフィン・デイビス、トーマシン・マッケンジー、タイカ・ワイティティ第二次世界大戦、ナチスドイツ下のドイツ人少年が体験する、生きる喜びと人生の真実を描いたヒューマン・エンターテインメント。ユーモアと感動に溢れた本作はトロント国際映画祭観客賞を受賞し、アカデミー賞最有力候補の一つ。

トランボ ハリウッドに最も嫌われた男

製作国：アメリカ監督：ジェイ・ローチ出演：ブライアン・克蘭ストン、ダイアン・レイン、ヘレン・ミレン『ローマの休日』の脚本家ダルトン・トランボの伝記ドラマ。リメイク版もヒットした脱獄映画の金字塔『パピヨン』の脚本家としても知られるトランボは、赤狩りにより偽名での創作を余儀なくされた。偽名で書いた脚本が2本もアカデミー賞を獲得した彼の激動の半生を描く。

今回の機会を逃すと日本のスクリーンで観ることが叶わない作品も少なくありません。上映スケジュールやイベント情報を公式サイトで確認し、気になる作品を鑑賞しに出かけてみてはいかがでしょうか。

第32回東京国際映画祭(TIFF)公式サイト <https://2019.tiff-jp.net/ja/>

取材・文：宮崎千尋（映画ライター）